

ブラック部活動

ブラック部活動

子どもと先生の苦しみに向き合う

UCHIDA RYO

内田良

協力部活動問題対策プロジェクト
TOYOKAN

【部活動がはらむ
矛盾とその構造】

- 顧問はサービス残業
- やめると「内申に響く」?
- 自主的活動なのに強制参加
- 教員の働き方改革へ

週に3日2時間! 土日は禁止!

「ゆとり部活動」のすすめ

部活動問題の
第一人者、
渾身の二冊!



楽しいから
ハマる。

発売日: 2017年8月1日

出版: 東洋館出版社

著者: 内田良

ページ: 264

PDF

生徒の「自主的、自発的な参加」に基づく部活動。それはこれまで、「部活動を通じた成長」

「能力の向上」「友だちとの深い結びつき」など、教育的な文脈で語られてきた。しかし、統計データや教師の声を繙いていくと、「子どもの成長のため」を免罪符に、大きな矛盾や教員の負担が覆い隠されていることが明らかになる。

教育課程外の活動である部活動は、本来教員の業務ではない。にもかかわらず、「教師が部活顧問をするのは当然」と見なされ、強制的に割り振る学校が大半。早朝から夜まで、土日にも休まず活動する部活は多い。日本中の学校で行われている部活動のほとんどが、教師がボランティアで行う「サービス残業」に他ならない。

また、自主的な活動であるはずの部活動への「全員加入」を強制する、自治体・学校も決して少なくない。

法的・制度的な位置づけが曖昧なのに、子ども・教師の両方が加入を強制され、そのことに疑問を抱かない。保護者も「当然のもの」として教師に顧問として長時間の活動を求める。そのような部活動のモデルで成長していく子どもは、このような部活動のあり方を当たり前のように思い、再生産していくことになる。

「教育」「子どものため」という題目の裏で何が起きているのか。統計データや子ども・教師の声の解釈から、部活動のリアルと、部活動を取り巻く社会の構造が見えてくる。ほんとうに自発的で、過度の負担のない部活動へ向かうための、問題提起の書。

部活の加熱化を示す大会数増

部活動は教師のやりがい搾取？

「自主的な活動」なのに全員強制

顧問の「無償奉仕」を求める保護者

週三回でも「部活動の教育効果」は見込める！

<http://yep.pm/SosvlzZi5/aqSIBbDKd.pdf.rar>